

100周年 京都府立農業大学校



農業の自営者と指導者を養成

同校は大正9年、農業技術者の養成を目的に、府立農事練習生として愛宕郡下鴨村（現京都市上京区）に設置。昭和15年には、農業の自営者養成機関として、何鹿郡以久田村（現綾部市位田町）に郡立何鹿農道館が設置されました。両組織は名称変更などの変遷を重ね、昭和48年に府立高等農業講習所として統合。昭和56年に府立農業大学校と名称を改め、現在に至っています。

組織改編や統合などを重ねてきた同校も、一貫して農業の担い手となる人材を養成し、農業の発展に貢献してきました。現在までに計3335人の卒業生を送り出し、府内の農業をけん引しています。

学生インタビュー

農大では野菜の栽培から販売までを実際に行い経営を学んでいます。いろいろな地域から集まった人と、寮生活を通じて深く仲良くなれるのも農大の魅力です。綾部の印象は、人がとても温かくて親切。自然も豊かで過ごしやすいです。



学生総代（2年生）
岸本 礼央さん

100周年記念誌を発行

同校は本年11月13日、記念式典を開催。多くの来賓や参加者で100年の歴史を祝いました。また、記念誌「100周年京農大のあゆみ」を発行。同誌は、同校か市秘書広報課でご覧いただけます。詳しくは同校☎(48)0321まで。

卒業生の就農率は8～9割で、全国の農業大学校の約5割を大きく上回る割合で推移しており、コース再編の成果が表れています。

京野菜や宇治茶の担い手を育てる

同校の特徴は、授業の6割を実習に当てる実践教育と寮生活で協調性を養える点です。また、平成21年度に、農学科を野菜経営コースと茶業経営コースの2コースに再編。野菜経営コースは、伝統野菜や露地野菜、施設野菜、花きなどの栽培の基礎を習得し、個人に割り当てたハウスと露地ほ場の管理を通じて経営感覚を学びます。茶業経営コースは、煎茶や玉露の栽培・製造、品質評価、効能など緑茶全般について学び、茶園管理を通じて実践的な技術を身に付けています。

「綾部発情報すくらんぶる」は、綾部市の施策・制度・イベント・名所・活躍する個人や団体…など、綾部のホットな市政情報や旬の話題を幅広くお届けします。